

環境コミュニケーション

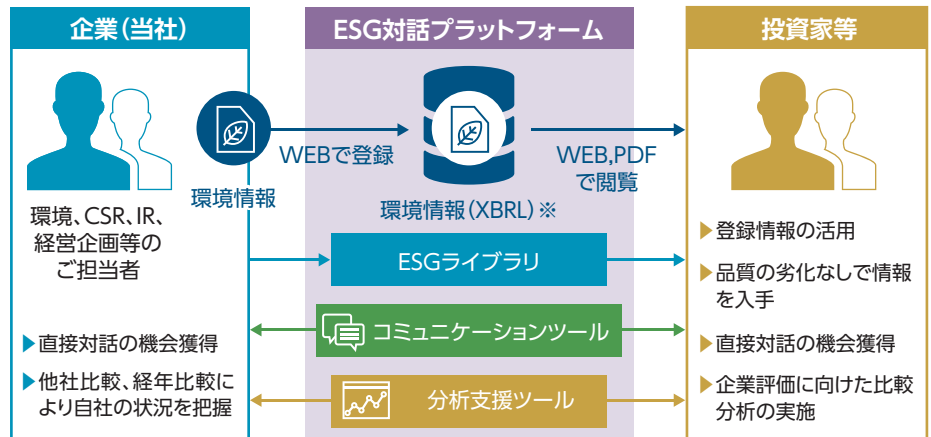
投資家との対話

【環境情報開示基盤整備事業への参画】

当社は、企業と投資家等を結ぶコミュニケーションの場を提供するために2016年度から運用実証が開始された環境省の「環境情報開示基盤整備事業」に、2018年度から参画しています。投資家の皆さま向けの環境情報は、以下の環境省ホームページで公表されています。

[URL]

<https://www.env-report.env.go.jp/outline.html>



※:Extensible Business Reporting Languageの略。効率的な比較分析等を可能にするコンピューター用語で、財務報告分野で広く採用され、国内では金融庁のEDINETや東京証券取引所のTDnet及びコーポレート・ガバナンス情報サービスなどに利用されている

CDPへの回答

2018年度は、気候変動など環境分野に取り組む国際NGOのCDP(カーボンディスクロージャープロジェクト)気候変動質問書及びウォーター質問書に回答しました。



社外からの表彰

第27回地球環境大賞「経済産業大臣賞」受賞

フジサンケイグループが主催する第27回地球環境大賞で、当社初となる「経済産業大臣賞」を受賞しました。

「地球環境大賞」は世界自然保護基金(WWF)ジャパンの協力を得て創設された、日本の環境に関する表彰制度としては最も規模が大きく、かつ権威と格式があるものです。

今回の受賞は、地熱や水力を中心とした再生可能エネルギーの積極的な開発、天候や時間により大きく変動する太陽光や風力により発電された電気を火力や揚水などの自社電源と最適に組み合わせた最大限の受入れ、並びにくじゅう坊ガツル湿原一帯における野焼き活動などの地域との協働による環境保全活動が高く評価されたものです。

第27回
地球環境大賞
Since 1992



授賞式の様子(東京・元赤坂 明治記念館)



平木大作経済産業大臣政務官から表彰状を受け取る賞会長(当時)(秋篠宮同妃両殿下ご臨席)

坊ガツル湿原一帯での環境保全活動の社外評価

坊ガツル湿原一帯での環境保全活動は、環境省等が後援する各種コンテストでも高く評価され、以下の賞を受賞しました。

- ・「第6回いきものにぎわい企業活動コンテスト」
(水と緑の惑星保全機構会長賞)
- ・「平成29年度日本自然保護大賞」(入選)



「いきものにぎわい企業活動コンテスト」表彰式の様子



「日本自然保護大賞」賞状

「くじゅう九電の森」での環境教育の社外評価

「くじゅう九電の森」における環境教育は、参加者以外からも高く評価されました。「Forest Good 2017 ～間伐・間伐材利用コンクール～」(後援:林野庁)の「間伐実践・環境教育部門」において、「特別賞」を受賞しました。



「Forest Good 2017」表彰式の様子

環境コミュニケーション大賞「優秀賞、優良賞」受賞(グループ会社)

環境省が主催する環境コミュニケーション大賞の環境活動レポート部門で、グループ会社の九州林産(株)の生物多様性への取組みや、CO₂吸収など本業を活かした活動が評価され、2年連続の「優秀賞」を受賞しました。

さらに、同じくグループ会社の光洋電器工業(株)の熊本地震後の速やかな環境活動の再開などが評価され、3年連続の「優良賞」を受賞しました。



授賞式の様子(九州林産(株))



授賞式の様子(光洋電器工業(株))

私の環境アクション



光洋電器工業(株)
企画・総務部
環境管理推進委員
わたなべ ゆうき
渡邊 友紀

光洋電器工業が環境コミュニケーション大賞で3年連続の「優良賞」を受賞しました。

環境省が主催する第21回環境コミュニケーション大賞の環境活動レポート部門で、当社の「エコアクション21環境活動レポート」が3年連続の優良賞を受賞しました。

熊本地震の被害や集中豪雨の影響で、いくつかの目標は未達成であったものの、速やかに環境活動を再開したことや、廃棄がいの再資源化などの環境経営に繋がる新たな取組みを開始した点が高く評価され受賞に至りました。

一昨年の熊本地震では、会社はもとより従業員の大半が被災した中で、当社の環境活動に対し名誉ある賞をいただいたことは、明るい話題として従業員一同大変喜んでおり、これまでの自分たちの取組みに対する自信にも繋がりました。

今後も、環境経営を念頭に、ゼロエミッションとエネルギー消費量の削減を目指し、従業員一丸となって取組んでまいります。



第17回 九州電力環境顧問会

2017年9月26日に「第17回 九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと
浅野 直人
福岡大学 名誉教授



かど ひさよし
門 久義
鹿児島大学 名誉教授



たけが はら けいすけ
竹ヶ原 啓介
株式会社政策投資銀行 執行役員
産業調査本部 副本部長兼 経営企画部
サステナビリティ経営室長



なが た こ
詠田 トキ子
NPO法人
みやぎエコの会 理事長



にしむら くにゆき
西村 邦幸
㈱三菱総合研究所
研究理事室 参与



よしだ てつお
吉田 哲雄
㈱ワイビーエム
取締役 会長



(注)ご所属は2018年1月末時点で記載しています



会議風景

■ ご意見の概要と対応方針

	主なご意見	主な対応
環境経営の方向性について	<p>SDGs (持続可能な開発目標)・ESGの視点と当社環境活動の整合性について</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs自体に明確な評価基準はないため、独自の解釈で計画や取組みの整合性を判断してよい。 企業価値を高めるためには、SDGsの思想を事業戦略に反映し、社会課題の解決に貢献していくべき。 ESGの着眼点は、企業経営において財務だけでなく、環境面も重視する姿勢が見えるかどうかである。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの目標を達成するために、当社が取組むべき課題を、会社全体の環境行動計画に反映しました。 法対応だけでなく、社会課題の解決を見据えながら、事業活動と環境保全を両立していきます。 これまで同様、環境経営を事業戦略や企業運営に反映し、継続した成長に繋げていきます。
	<p>社員のインセンティブを高める仕組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の地球環境を大きく左右する産業であることを社内に浸透させ、日々の環境を重視した行動に繋げていく。 現場のニーズを吸い上げる為には、提案を募り、良いものは採用・評価する仕組みが効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議や研修などを通して、社員の環境に関する理解促進や意識高揚を図っていきます。 現場のニーズを環境活動の方針や計画に反映することで、納得感の醸成や成果の見える化を図っていきます。
	<p>機関投資家等に対する情報開示要求への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> 社外に対しては、再エネの開発や最大限の受入れに努力していることを、もっと紹介していくべき。 地熱や小水力発電など、九電グループの技術力を海外に積極的にPRしてもいいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の環境報告書では、地球環境問題への取組みの中で、再エネの開発や受入れについて、具体例を交えながら体系的に紹介する構成に見直しました。 地熱開発など当社グループの強みを、様々な媒体を通じて積極的にPRすることで、イメージやブランド力を高めていきます。

	主なご意見	主な対応
地域環境活動への取り組みについて	地域における環境活動のニーズについて <ul style="list-style-type: none"> 地域の情報やニーズを吸い上げるためには、お客さまと直に接する社員に提案してもらうような仕組みがあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境月間などの計画策定時に、社員が地域ニーズを意識(反映)した活動について、提案しやすい仕組みを検討していきます。
	効果的なコミュニケーションを図るための協働先について <ul style="list-style-type: none"> 環境を専門にしている学校は九州にも多くあるため、ディスカッションする場を設けてはどうか。また、地域協議会などにメンバーとして参画すると社外との接点が増え、ステップアップに繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働先については、現場の意見を踏まえつつ、学生並びに地域で活躍しているOB等への協力要請も視野に入れながら検討していきます。
	地域環境活動における情報発信力を高め、お客さまとのコミュニケーションを促進するための方法について <ul style="list-style-type: none"> 自社で主催し、自社の媒体での情報公開だけでは、発信力の面で限界がある。地域、OB、社員の活動をサポートすることで、社外からの自発的な発信を促してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の目的やターゲットの明確化や、効果の高い発信方法(参加者、協働先、マス・メディアを活用した情報発信)について検討していきます。
情報発信のあり方について	ESG 評価が期待できる開示について <ul style="list-style-type: none"> 事業者の環境への取組みを網羅的に情報開示しても理解されない。事業活動における環境課題と具体的な対応を関連付けて説明することで評価が高まる。 電力会社は化石燃料の燃焼によりCO₂を大量に排出するため、CO₂排出抑制対応を丁寧に説明する必要がある。その対応として再エネの中でも九電グループの強みである地熱発電を中心にPRしてはどうか。 石炭火力発電を保有する企業として、石炭火力は賦存量が多く、経済性に優れているだけでなく、環境技術が進歩していることを広く知ってもらうための努力が必要。 	今回の環境報告書では、以下の点を見直しています <ul style="list-style-type: none"> 環境行動計画の策定プロセスを開示し、重点取組項目に対する中長期的な環境目標を掲載しています。 サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量について、記載内容を充実させています。 国際的な温暖化対策への貢献の中で、国内外での地熱開発について詳しく紹介しています。 石炭火力の低炭素化への取組みの中で、技術開発の動向を紹介しています。

SDGs: 2015年9月に国連サミットで採択された国際社会全体の「持続可能な開発目標」であり2030年を期限とする17の目標で構成(17の目標の下に、細分化された169のターゲットで構成)

ESG: 環境(E)、社会(S)、企業統治(G)の3つの要素に着目して企業を分析し、優れた経営をしている企業に投資するESG投資の基となる考え方

アンケート結果、お客さまの声

2017年6月に発行した「2017九州電力環境アクションレポート」の読者アンケートを通じて、九電グループの環境活動のあり方などについて、424名の皆さまから貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

2017年度は「レポートのわかりやすさ」、「環境への取組みの評価」が、ともに2016年度より高い結果となりました。2018年度については、再生可能エネルギーの開発と受入れについて詳しく紹介するとともに、事業活動における重要な環境課題の特定プロセスの説明(P9参照)など、読者の皆さまにより親しみやすくご理解いただけるよう、内容・構成を見直しました。

■ 九州電力の取組みについて、ご関心を持たれた項目と、その理由やご意見

(回答者数=424)

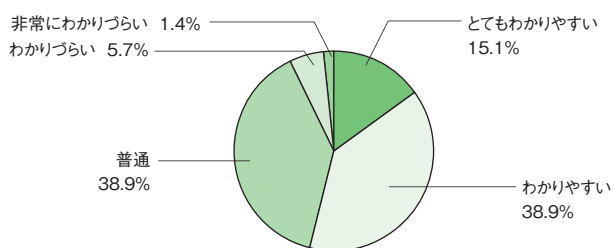
順位	項目(上位5項目)	選択数			主な理由・ご意見
		最も関心あり	関心あり	合計	
1	安全の確保を大前提とした原子力発電の活用	60	39	99	<ul style="list-style-type: none"> 毎日使っている電気だからこそ、安定供給には今のところは原子力発電が必要。ただし、何かあってからでは遅いので、使用している一消費者として知っておく必要がある 原子力の安全確保が、九電の最大で最重要な仕事
2	特集1 CO ₂ 排出抑制に向けた需給両面での取組み/ 原子力発電の活用によるCO ₂ 排出量削減/ 家庭から出るCO ₂ 排出量削減の必要性	51	39	90	<ul style="list-style-type: none"> 家電製品の買い替えなど電気の更なる節約で、国を挙げて省エネルギー化に努める必要があると感じた 原子力発電のCO₂排出量は確かに低いが、事故が起きなかった場合であり、安易に比較できない
3	特集2 将来を担う次世代の環境を大切に 心を育んでいます/森を楽しみながら学ぶイベント 「Play Forest」を九州各地で開催/ くじゅう九電の森での環境教育活動	48	48	96	<ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みの中で、次世代を担う子供たちを対象とする活動に取り組む姿勢を評価した。願わくば、より多くの街(特に発電所立地自治体)で開催して欲しい 九州各地で開催されている事を知らない人が多いと思う。もう少しCM等を通して教えてほしい
4	再生可能エネルギーの積極的な開発と 最大限の受入れ	33	56	89	<ul style="list-style-type: none"> 再エネの積極的な開発のため、九州の豊富な地熱資源を活用し地域との共生を図りながら導入を進めてほしい 再エネを積極的に利用していかなければ、エネルギー問題は解決できないと感じる
4	お客さまとともに進める省エネ活動	33	49	82	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの有効活用について、一人一人が考えていべき時がきている 省エネに関しては特に主婦層の関心が高いと思うので、特集化しても良いと思う

(注)「最も関心あり」の選択数で順位付け。最も関心ありは1つ、関心ありは4つまで選択可能

■ 2017九州電力環境アクションレポート アンケート結果

レポートのわかりやすさ

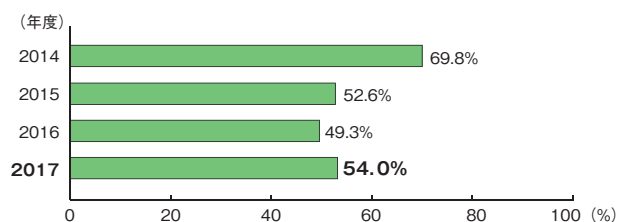
(2017年度 回答者数=424)



■ ご意見の経年変化

レポートのわかりやすさ

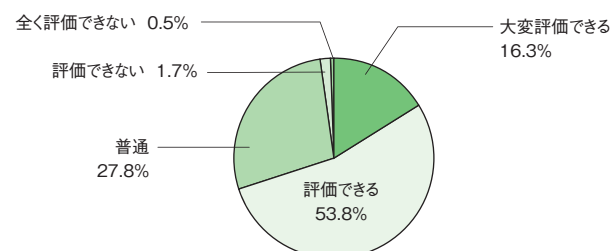
(2017年度 回答者数=424)



(注)「とてもわかりやすい」、「わかりやすい」の回答割合

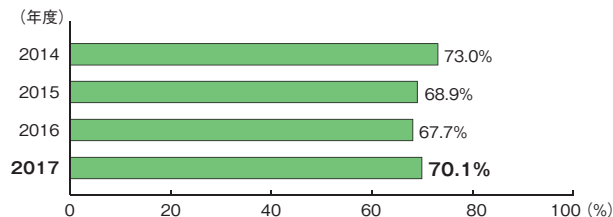
当社の環境への取組みに対する評価

(2017年度 回答者数=424)



当社の環境への取組みに対する評価

(2017年度 回答者数=424)



(注)「大変評価できる」、「評価できる」の回答割合

エコ・マザー活動におけるアンケート

保護者の方々と保育園等の先生を対象に、エコ・マザー活動(P52)に関するアンケートを実施しています。

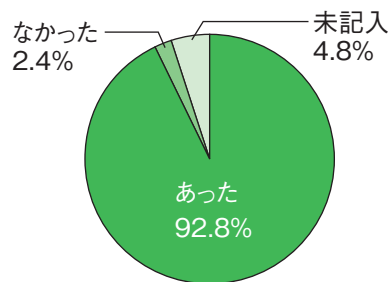
アンケートでいただいた貴重なご意見については、今後のエコ・マザー活動に活かしていきます。

<アンケート回答数>

保護者:2,880 保育園等の先生:167

■ エコ・マザー活動へ参加後の変化(保育園の先生)

Q:エコ・マザー活動後に、お子さまに変化がありましたか



■ 家庭での環境への取組み(保護者) (複数回答可)

Q:ご家庭で取り組む環境に配慮した行動について、エコ・マザーから子どもたちに伝えてほしいことは何ですか

○ 照明はこまめに消すこと	74.6%
○ 歯を磨く時に水を止めること	69.1%
○ テレビを見る時間や使い方の工夫	55.7%
○ シャワーをこまめに止めること	49.6%
○ 冷暖房の設定温度への配慮	42.8%
○ ゴミを極力出さないようにする工夫	34.8%
○ エコバッグの利用	34.3%
○ 使用しない時の家電製品のプラグ抜き	33.0%
○ その他	2.7%

■ 読み聞かせ後の子どもたちの変化(保護者 保育園の先生)

○ 節水するようになった	51.5%
○ 節電するようになった	25.1%
○ 節水・節電の声かけをしていた	14.4%
○ 「もったいない」と言うようになった	13.2%
○ 環境紙芝居に登場する合言葉を言うようになった	7.8%
○ 「CO ₂ が出る」と言うようになった	7.2%
○ 給食を残さないと言うようになった	3.6%
○ ゴミを分別したり減らすようになった	3.0%

環境に関するお問い合わせ等への対応

■ 環境に関する主なお問い合わせ内容と対応(2017年度)

項目	件数	主な内容	対応概要
ご提案	1	CSR報告書に、2015年に施行された「フロン排出抑制法」に基づく、対象フロンの排出量を記載して欲しいとご提案。	「フロン排出抑制法」に基づく、対象フロンの排出量については、2017九州電力環境アクションレポートP14「環境負荷量」、P18「ハイドロフルオロカーボン(HFC)」の項に記載している旨をご説明。
ご質問	1	2017年度の電力のCO ₂ の排出係数を用いてCO ₂ 排出量を調べたいが、九州電力のホームページでは2016年度の実績が最新となっている。 2017年度のCO ₂ 排出量を計算する上では、2016年度の排出係数0.483kg-CO ₂ /kWhを用いてよいのか。	「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」では、国に温室効果ガスの排出量を報告する際は、電気の購入先である電気事業者の当該年度の「前年」のCO ₂ 排出係数を用いて算定することとされている。 このため、お客さまが2017年度のCO ₂ 排出量を算定される場合は、当社の2016年度のCO ₂ 排出係数をご使用いただくようご説明。